

# 話題提供②: メディアの分析とそのむこう

大場美和子  
広島女学院大学  
文学部

# 1. 問題の所在

日本語教育の現場で、  
留学生とのやりとりの問題に関心



接触場面と内的場面の会話データ分析



日本語教育の現場での活用を考察  
(大場2011a、2012、など)

- 接触場面を重視した研究を行い、接触場面を基盤とした教育を実践する。

(ネウストプニー1995a)

- 接触場面の全ての問題は解決しえない事実を認め、解決できない問題をいかに軽減するかを検討する。

(ネウストプニー1995b)

# 留学生センター ⇒ 学部所属

## 2つの問題

### 問題1

日本語教育と接触場面の研究に対する日本人  
学部生の無関心

⇒ 接触場面を映像で疑似体験

接触場面への関心を喚起(大場2008)

### 問題2

会話データ分析に対する学部生や他分野の研  
究者の不理解

⇒ メディアの談話の会話データ分析

# 【表1】会話データ分析のむこうの3段階 (①研究からスタートの例)

A.会話 データ分析	取材の談話とニュースの談話 の比較分析
B.実践への活 用・改善	授業「社会言語学」: ・会話データ分析の紹介 ・メディア・リテラシーの育成
C.社会的貢献	学会・研究会発表: ・他分野との問題の共有 (通訳・翻訳) ・知見の教育現場への還元の議論 (日本語教育)

## 2. 会話データ分析の 社会的貢献の3段階

### 2.1 A段階: 会話データ分析

取材の談話とニュースの談話の比較

取材者と意見の不一致が発生

⇒ 接触場面のように感じるやりとり

発話は直接引用されているが、異なる主張

⇒ 違和感

問題の分析

## 2.1 A段階: 会話データ分析

### 取材の談話

約2時間のインタビューの録音・録画  
(2008年7月30日)

筆者

民放局のインタビュアーとカメラ担当の2名

### テレビニュースの談話

夕方の地域のニュース番組の録画  
(2時間10分、2008年8月5日)

→ 世論調査のニュースは11分

## 2.1 A段階：会話データ分析

(1) ニュースの談話の構成分析

(2) 2つの談話の引用関係の分析

(3) 取材の談話の話題の分析

(4) 各話題の質問と応答の分析

(大場2010、2011b)



# 平成19年度「国語に関する世論調査」

調査目的：言葉遣いや国語力についての考え，外国人とのコミュニケーションやカタカナ語使用についての意識，また，慣用句等の意味の理解や使用の現状について調査し，国語施策を進める上での参考とする。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：平成20年3月1日～3月20日

調査方法：個別面接調査

回収結果：調査対象総数 3,445人

有効回収数(率) 1,975人(57.3%)

文化庁HP

[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/yoronchousa/h19/kekka.html](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h19/kekka.html)

# 「煮詰まる」

例文：七日間に及ぶ議論で，計画が煮詰まった。

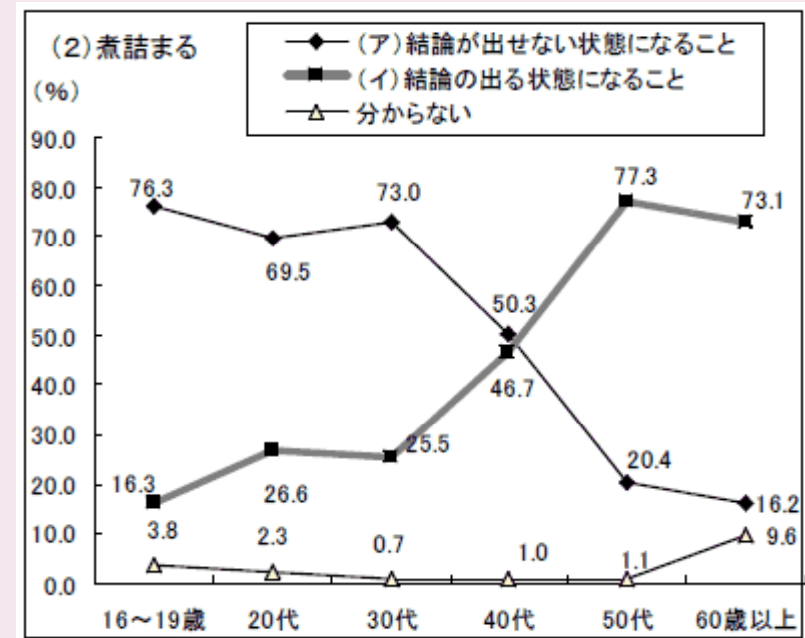
(ア) (議論が行き詰まってしまって)  
結論が出せない状態になること  
と…… 37.3%

(イ) (議論や意見が十分に出尽くし  
て) 結論の出る状態になること……  
56.7%

(ア)と(イ)の両方……………1.2%

(ア)(イ)とは全く別の意味…… 0.2%

分からない……………4.6%



# 「国語に関する世論調査」のニュースの構成

【1:スタジオ】(12秒)

予告

【2:スタジオ】(30秒)

導入

【3:街頭調査(録画)】(2分42秒)

正誤判断:「煮詰まる」「さわり」「慥然」

【4:スタジオ】(3分41秒)

正誤判断:「足をすくわれる／足下をすくわれる」

「役不足」「確信犯」「敷居が高い」「檄を飛ばす」

【5:専門家の解説(録画)】(54秒)

解説

【6:スタジオ】(1分29秒)

まとめ

# ニュースの「専門家」の解説(54秒)

- 01 その話してる時ってというのは、普通に一会話が成立、コミュニケーションが成立していて一何ら問題は発生していない
- 02 だけど表面上何も起こってなかったのに、2人の間で、解釈が違ってることってかなりあります
- 03 気づかない、会話ってすぐ消えてしまいますから、そんな誤解がちょっとずつ起こって気がついたらあらぬ意味の変化に
- 04 70%とかの方々が、こっちだって選ばれたのであるから、この方達にとっては何ら問題なく
- 05 語一そのものの意味よりも、そこでのコミュニケーションの意思疎通を成立させることの方が重要であって、ある1つの語彙に対しては、管理を及ばせない、ということで

## 《談話例》

864T: はあっごめんなさいすいません, あー何かですね, あの一, 私は普段会話分析をしててこういうふうビデオで撮った会話の特徴一を分析してるんですけども, その話してる時っていうのは一, 普通に一会話が成立一, コミュニケーションが成立していて一何ら問題は発生していない, だけど会話収録したあとに一人一人にフォローアップインタビューとしてこの時どうだった一てインタビューしてみると, いや実はねっていうことが結構出てきて一, 表面上何も起こってなかったのに一, 2人の間で一, 解釈が違ってるっていうことってかなりあります.

だからー、私の専門から考えたらー、そういう気づかない、会話ってすぐ消えてしまいますから、そんな誤解がちょっとずつ起こって気がついたら、あらぬ意味の変化になってたってこともありえるんじゃないかなーつとゆー、証拠無いからいえないんですけどー、これ以上、はははっはっは、と思いますけど。

## 2.1 A段階：会話データ分析

(1) ニュースの談話の構成分析

(2) 2つの談話の引用関係の分析

発話の部分的利用による現実の再構成

→ 事実関係の単純化

(3) 取材の談話の話題の分析

(4) 各話題の質問と応答の分析

一貫性に欠けるQ&Aのやりとり

→ 互いに納得できない内容の調整

(大場2010、2011b)

# 【表1】会話データ分析のむこうの3段階 (①研究からスタートの例)

A. 会話 データ分析	取材の談話とニュースの談話 の比較分析
B. 実践への活 用・改善	授業「社会言語学」: ・会話データ分析の紹介 ・メディア・リテラシーの育成
C. 社会的貢献	学会・研究会発表: ・他分野との問題の共有 (通訳・翻訳) ・知見の教育現場への還元 の議論 (日本語教育)



## 2.2 B段階：実践現場への活用

授業「社会言語学」:

- ・会話データ分析の紹介
- ・メディア・リテラシーの育成

## 2.2 B段階：実践現場への活用

- ・メディア・リテラシーの教育活動に  
会話データ分析活動を組み



- ・単純化できない現実があることを  
会話データから提示する。
- ・その現実を自分なりに理解して  
調整しようとする能力の

A段階をいかし  
たB段階

問題2の調整  
会話データ分析  
の不理解

## 学部生対象の「社会言語学」の授業

2009年度、2010年度、2011年度後期

2年生以上の選択科目

表面上はメディア・リテラシーに着目した

「社会言語学」の授業

会話データ分析の事例を紹介

- ・単純化できない事実を会話データから具体的に紹介

- ・問題の実態を把握してどう調整するか考察

⇒問題2 会話データ分析の不理解の問題の調整

# 「社会言語学」の授業シラバス

## 授業の目的と進め方

本コースでは、多様化するメディアの中でも特にテレビニュースに焦点をあて、テレビニュースにおける複合的な要素を分析する視点、さらに、**メディア・リテラシーの観点からテレビニュースにおける情報を批判的に解釈する視点を習得すること**を目的とする。

コース前半は、メディアの分析方法について講義中心に進め、メディア分析に関わる社会言語学の基本的な概念について学びながら、メディア分析のための方法論を習得することをめざす。

コース後半は、前半の学習をもとに、実際にテレビニュースの分析活動を行う。**受講生は自らの関心を持った番組とテーマからテレビニュースの分析を行い、その分析結果を発表することで、メディア・リテラシーの実践をめざす。**

# シラバスのポイント

## 批判的に解釈する視点:

→単純化できない事実を会話データから実感する。

## 受講生による分析:

→何が問題であるのか実態を把握し、それをどのように調整するか考察する。

↑

ネウストプニー(1995a, 1995b)

# 「社会言語学」の授業の流れ

## コース前半

### 講義＋ディスカッション

- ・印象と現実とのずれ
- ・ニュースの不快感と原因
- ・ニュースの構成分析
- ・登場人物の役割分析
- ・「専門家」の演出方法
- ・制度的談話
- ・言語計画
- ・研究事例の紹介

単純化できない現実を会話データで提示

## コース後半

### 分析活動＋ディスカッション

- ・研究の目的の明確化
- ・分析の方法の明確化  
データの特定
- ・研究の意義の主張
- ・研究の流れの明確化
- ・学生発表

実態を把握して調整する能力の育成

# 「社会言語学」の授業の流れ

## コース前半

### 講義＋ディスカッション

- ・印象と現実とのずれ
  - ・ニュースの不快感と原因
  - ・ニュースの構成分析
  - ・登場人物の役割分析
  - ・「専門家」の演出方法
  - ・制度的談話
  - ・言語計画
  - ・研究事例の紹介
- ・世論調査のイメージと実体（大場2010）
  - ・世論調査のニュースの登場人物（大場2010）
  - ・「大学の先生」らしさ（大場2010）
  - ・取材のやりとり（大場2011b）
-

# 「社会言語学」の授業の流れ

コース後半

分析活動＋ディスカッション

- ・研究の目的の明確化
- ・分析の方法の明確化  
データの特定
- ・研究の意義の主張
- ・研究の流れの明確化
- ・学生発表

A段階のプロセスの提示

問題(違和感)



分析



調整

(大場2010、2011b)



**問題** ⇒ 問題の分析と調整  
(ネウストプニー1995b)

**違和感** ⇒ 実態を把握して解決  
会話データ分析のA段階のプロセスの提示

## 学生の発表とレポートの例

- ・YouTubeにある芸能人のインタビュー
- ・インタビューが編集されて放送されたニュース



単純化できない現実を実感

## 2.2 B段階：実践現場への活用

メディア・リテラシーの教育活動に  
会話データ分析活動を組み入れる。



- ・単純化できない現実を会話データから提示
- ・単純化できない現実を自分なりに理解して  
調整する能力の育成



問題2 会話データ分析の不理解の問題の調整

## A段階: 会話データ分析

取材の談話とニュースの談話の比較分析



## B段階: 授業の実践

会話データ分析から何がどのように見えてくるのかを具体的に提示



会話データ分析に対する**不理解の問題**が  
授業の学部生に対して部分的に改善

# 【表1】会話データ分析のむこうの3段階 (①研究からスタートの例)

A. 会話 データ分析	取材の談話とニュースの談話 の比較分析
B. 実践への活 用・改善	授業「社会言語学」: ・会話データ分析の紹介 ・メディア・リテラシーの育成
C. 社会的貢献	学会・研究会発表: ・他分野との問題の共有 (通訳・翻訳) ・知見の教育現場への還元 の議論 (日本語教育)

## 2.3 C段階：社会的貢献

### 学会・研究会発表

- ・他分野との問題の共有  
(通訳・翻訳)
- ・知見の異なる教育現場への還元の議論  
(日本語教育、学部生教育)

## 2.3 C段階：社会的貢献

他分野との問題の共有

社会言語科学会

通訳・翻訳の専門領域の方と意見交換

## 2.3 C段階:社会的貢献

### A段階の知見とB段階の実践

→ 異なる教育現場への還元の議論

メディアの談話の分析  
⇒学部生の教育

### 日本語教育の研究会

・留学生のアカデミック・ジャパニーズ  
の指導

日本語教育の現場

・初年次教育のアカデミックスキルの指導

学部の初年次教育



# 3. まとめ

## 2つの問題

### 問題1

日本語教育と接触場面の研究に対する日本人  
学部生の無関心

### 問題2

会話データ分析に対する学部生や他分野の研  
究者の不理解

# 日本語教育学 会話データ分析

認知度の低い分野に対する単純化した理解  
単純化した理解に疑問を抱かない

≡ 接触場面での問題

**ABC段階のプロセスにより、受講生の会話データ分析の不理解の問題(問題2)が軽減**

## **ABC段階のプロセス**

**分析対象・教育分野が異なっても実践可能**

- ・接触場面の研究とメディアの分析**
- ・日本語教育と日本人学部生の教育**

## 今後の課題

- ・A段階
- ・メディア側との対話
- ・他分野の教員の会話データ分析に対する  
不理解の問題

# 参考文献

- ネウストプニー, J.V. (1995a). 新しい日本語教育のために 大修館書店
- ネウストプニー, J.V. (1995b). 日本語教育と言語管理 大日本語研究, 7, 67-82.
- 大場美和子 (2008). 接触場面における問題の対応能力の育成をめざして— 日本人学部生に対する映像を利用した授業実践の分析— WEB版実践研究フォーラム報告, 1-11  
(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/nkg/kenkyu/Forumhoukoku/kk-Forumhoukoku.html#2008>)
- 大場美和子 (2010). 取材の談話とテレビニュースの談話の比較—「国語に関する世論調査」に対する「専門家」の解説のつくられかた— 社会言語科学会第25回大会論文集, pp.244-247.
- 大場美和子 (2011a). 内的場面と接触場面における三者自由会話への参加の調整—談話・情報・言語ホストの役割の分析— 千葉大学審査学位論文
- 大場美和子 (2011b). テレビニュースの取材の談話における話題と質問の分析—「国語に関する世論調査」に対する「専門家」の解説のつくられかた— 社会言語科学会第27回大会論文集, pp.204-207.
- 大場美和子 (2012). 接触場面における三者会話の研究 ひつじ書房